

環境負荷低減

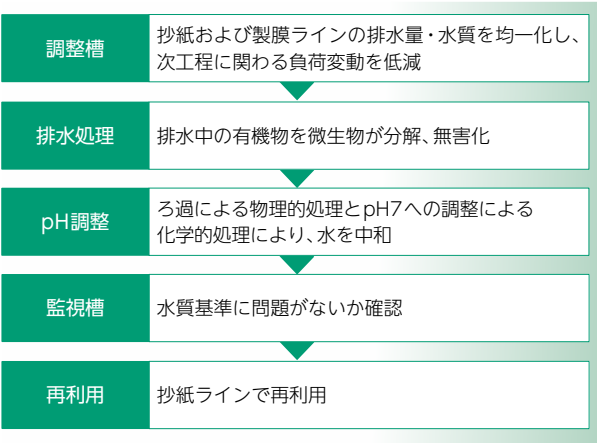
水資源への取り組み

■ 取水量・排水量の管理

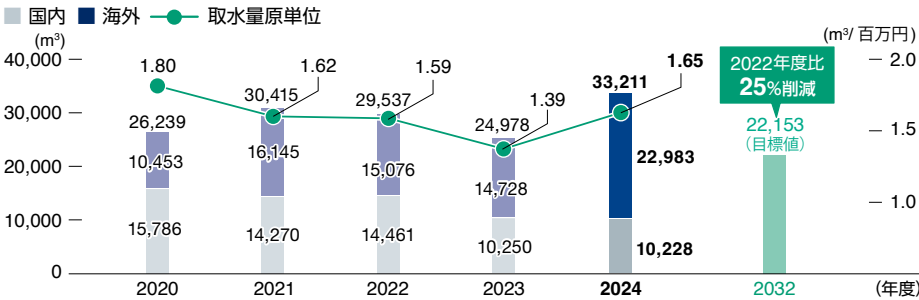
当社にとって、限りある水資源の保全・有効活用は重要な課題という考えのもと、「2032年度までにグループの取水量を2022年度比25%削減」、「取水量原単位の低下」という中長期目標を策定し、拠点ごとに水使用量削減目標を掲げて取り組みを進めています。

佐賀工場では微生物処理後、ろ過(物理的処理)とpH調整(化学的処理)を行い、水質基準に問題がないことを確認してから排出しています。また、外部機関による検査を定期的に受け、排水の質を常に基準値以下に抑えています。抄紙ラインでは取水量削減のため水のリサイクルを行っています。リサイクル率のさらなる向上のため、2022年度に排水処理設備を導入しました。これにより水のリサイクル率は約50%前後から100%まで改善し、2022年度から継続してリサイクル率100%を維持しています。

▶▶ 佐賀工場の排水処理のフロー



▶▶ 取水量／取水量原単位



▶▶ 取水量 (取水源別)

取水源	範囲*1	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
上水	国内拠点	15,786	14,270	14,461	10,250	10,228
	海外拠点	10,453	15,833	9,312	9,184	16,737
工業用水	国内拠点	0	0	0	0	0
	海外拠点	0	312	5,764	5,544	6,246
その他 (地下水、河川水、 雨水)	国内拠点	0	0	0	0	0
	海外拠点	0	0	0	0	0
連結*2		26,239	30,415	29,537	24,978	33,211
原単位 (m³/百万円)		1.80	1.62	1.59	1.39	1.65

▶▶ 排水量 (排出先別)

排水先	範囲*1	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
下水	国内拠点	10,951	8,315	7,163	5,250	3,629
	海外拠点	10,453	16,145	15,076	14,728	22,983
排水処理施設*3	国内拠点	4,835	5,955	7,298	5,000	6,599
	海外拠点	0	0	0	0	0
その他 (河川、海)	国内拠点	0	0	0	0	0
	海外拠点	0	0	0	0	0
連結*2		26,239	30,415	29,537	24,978	33,211

*1 集計範囲【国内拠点】2019年度～2021年度：横浜開発センタ、横浜質メディアラボ、佐賀工場
2022年度～2024年度：横浜質イノベーションセンタ、佐賀工場、(株)アクシー
【海外拠点】2020年度：蘇州研究所、セブ工場
2021年度・2022年度：蘇州研究所、セブ工場、ベトナム工場
2023年度・2024年度：セブ工場、ベトナム工場

*2 集計は各年度の国内拠点と海外拠点を合わせた範囲で実施 *3 佐賀工場内の排水処理施設

環境負荷低減

■ 水リスク評価

当社は、生産拠点での水供給や洪水などのさまざまな水リスクを把握し、適切に対応するため、水リスク評価を実施しました。世界資源研究所 (WRI) が開発したグローバル基準の評価ツール「Aquaduct」を用いて、国内外全4拠点で一次評価を行いました。

二次リスク評価では、WWFが開発した「Water Risk Filter」および環境省の「生物視える化マップ」を用いて評価を行い、一次評価で水ストレス度が「非常に高い」と評価されたセブ工場・ベトナム工場では、特に水質、洪水、生態系サービスに関するリスク要因が高いことが分かりました。また、佐賀事業所では、佐賀平野クリーク、水路が生物多様性保全上重要な地域として認定されています。

➤ WRI Aqueduct評価結果 (一次結果)

生産拠点	水ストレス度
佐賀事業所	低い(1-2)
(株) アクシー	低い(1-2)
セブ工場	非常に高い(4-5)
ベトナム工場	非常に高い(4-5)

※ 水ストレス度：非常に低い(0-1)、低い(1-2)、中(2-3)、高い(3-4)、非常に高い(4-5)の5段階

➤ Water Risk Filter等の評価結果 (二次結果)

評価対象	主な高リスク要因
佐賀事業所	佐賀平野のクリーク、水路の生物多様性
セブ工場	水質、環境的要因 (淡水固有種、淡水生物多様性、湿地保護地区等)
ベトナム工場	洪水、水域の生態系サービス、河川等の変化

廃棄物削減への取り組み

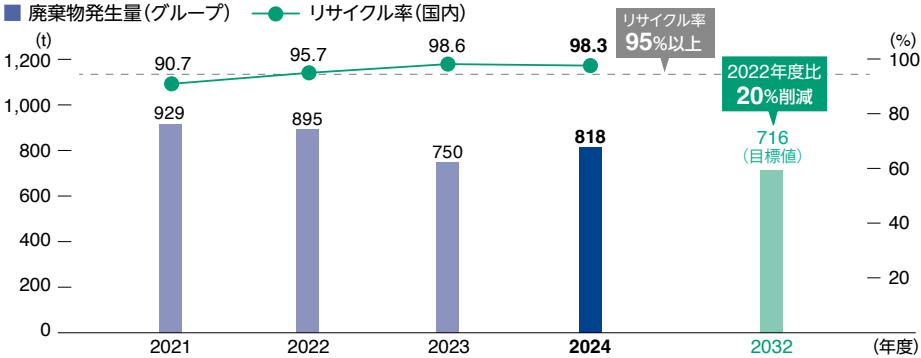
「2032年度までにグループの廃棄物排出量を2022年度比20%削減」、「国内のリサイクル率95%以上」という中長期目標の達成に向けて、生産や営業現場では廃棄物の分別など個別の環境目標を設定し、日々の業務で環境負荷低減に取り組んでいます。

2024年度の海外生産拠点を含めたグループ全体での原材料投入量が5,766t、外部への廃棄物排出量は818t、国内でのリサイクル率は98.3%でした。セブ工場やベトナム工場では、紙・繊維くず、廃油等の一部の産業廃棄物が産業廃棄物処理業者によってリサイクルされています。

廃棄物量削減のため、環境配慮型製品の開発を進めるとともに、リサイクルシステムの構築を目指し、引き続き検討していきます。

📖 製品を通じた貢献 (P.18)

➤ 廃棄物発生量／リサイクル率



➤ 廃棄物排出量 (有害廃棄物を含む)

分類	範囲*1	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
汚泥	国内拠点	132.8	127.3	108.4	119.8
	海外拠点	31.5	31.3	28.2	44.5
廃油	国内拠点	60.5	26.6	44.1	22.6
	海外拠点	21.5	27.1	18.4	31.0
金属くず	国内拠点	125.8	97.8	119.5	59.9
	海外拠点	0	3.1	3.0	4.1
廃プラスチック	国内拠点	474.1	339.0	257.4	313.0
	海外拠点	0	0.2	0	0.1
その他*2	国内拠点	42.5	38.0	23.8	21.7
	海外拠点	39.8	205.0	147.1	201.6
連結*2*3		929	895	750	818
うち、有害廃棄物		142	142	105	151

*1 集計範囲
【国内拠点】2021年度：横浜開発センタ、横須賀イノベーションセンタ、佐賀工場、(株) アクシー
2022年度・2023年度・2024年度：横須賀イノベーションセンタ、佐賀工場、(株) アクシー
【海外拠点】2021年度：蘇州研究所、セブ工場
2022年度・2023年度：蘇州研究所、セブ工場、ベトナム工場
2024年度：セブ工場、ベトナム工場

*2 一部拠点のデータ算定方法の見直しに伴い、2021年度および2022年度の数値を修正しています

*3 集計は各年度の国内拠点と海外拠点を合わせた範囲で実施

環境負荷低減

➤ 最終処分量／リサイクル量・率*1 (国内拠点*2) (t)

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
最終処分量	78	27	8	9
リサイクル量	758	602	545	528
リサイクル率(%)	90.7	95.7	98.6	98.3

※ 一部拠点のデータ算定方法の見直しに伴い、2021年度および2022年度の数値を修正しています
*1 サーマルリサイクル分を含む
*2 集計範囲
【国内拠点】2021年度：横浜開発センタ、横須賀イノベーションセンタ、佐賀工場、(株)アクシー
2022年度・2023年度・2024年度：横須賀イノベーションセンタ、佐賀工場、(株)アクシー

➤ 主な原材料投入量 (連結) (t)

原材料	2022年度	2023年度	2024年度
アルミニウム	1,022	898	1,015
鋼材	2,205	1,683	2,019
ステンレス	259	113	345
合成繊維	335	937	956
段ボール、紙加工品	394	215	266
その他	1,357	1,074	1,165
合計	5,572	4,920	5,766

有害化学物質管理

当社では化学物質の適切な管理のため、安全データシート (Safety Data Sheet : SDS) や作業手順書などを通じて、化学物質の廃棄も含めた取り扱い方法や保護具の重要性について周知をしています。各工場には化学物質の管理者を配置し、有害廃棄物量などのデータ管理を徹底することで、適正な管理および処理に努めています。

生物多様性保全への取り組み

当社は、生物多様性がサステナブルな社会にとって、重要な自然資本であると認識しています。2024年には、生物多様性方針を策定し、環境方針の重点テーマとして生物多様性保全を追加しました。当社グループの事業活動が生物多様性に及ぼす影響を限りなくゼロにできるよう、取り組みを強化していきます。

国内拠点は、環境省の生物多様性見える化マップ、海外拠点ではTNFDにより使用を推奨されている生物多様性ツールであるENCOREやIBAT (Integrated Biodiversity Assessment Tool) を用い、生物多様性の状況などを確認しました。佐賀事業所は佐賀平野に位置しており、特にクリークや水路が環境省の生物多様性保全上重要な里地里山として認定されていることが分かりました。海外拠点では、動植物保護区域等に隣接しておらず、生物多様性保全上、重要な地域にも指定はされていないことを確認しました。

➤ 生物多様性に関するツールによる評価結果

評価対象	評価結果
本社	—*
佐賀事業所	生物多様性保全上重要な里地里山 (佐賀平野のクリークや水路)
横須賀イノベーションセンタ	—*
(株)アクシー	—*
セブ工場	—*
ベトナム工場	—*

* スクリーニング結果で優先的な対応が不要なエリアと判断

[🔗 ヤマシンフィルタグループ 生物多様性方針](#)